助成事業完了報告書

日本財団　会長　笹川　陽平　殿

報告日付：2024年4月13日

事業ID：2023004195

事業名：三重県伊勢市における「子ども第三の居場所」学習・生活支援モデルの運営（3年目）

団体名：認定特定非営利活動法人ときわ会藍ちゃんの家

代表者名：理事長　小林　慶士　印

TEL：0596-20-5155

事業完了日：2024年3月31日

■契約時

事業費総額	：	9,600,000 円
自己負担額	：	0 円
助成金額	：	9,600,000 円

■箇所は「収支計算書」より自動転記

■事業完了時

事業費総額	：	9,663,124 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	：	63,124 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	：	9,600,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	：	0 円	（収支計算書の青のセルの値）

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容（予定）と、事業完了時の事業内容（実績）を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

（1）助成契約書記載の事業内容（予定）

1. 三重県伊勢市における「子ども第三の居場所」学習・生活支援モデルの運営（3年目）
（1）期間：2023年4月～2024年3月（週5日、14時から20時まで開所）
（2）場所：三重県伊勢市
（3）対象：25名（家庭や自身に課題を抱えた小学校低学年を中心）
（4）内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。季節ごとの遠足や農業体験、保護者と地域住民を招いてのイベントなどを実施し、子どもに多様な経験を提供する。また、日々の活動として、子どもの主体性を大切にしながら工作や調理実習、グループワークなどを通じて、子どもが生き抜く力を育めるよう支援する。

（2）事業完了時の事業内容（実績）

1. 三重県伊勢市における「子ども第三の居場所」学習・生活支援モデルの運営（3年目）
（1）期間：2023年4月～2024年3月（週5日、14時から19時まで開所　長期休暇時は11時から18時）
（2）場所：三重県伊勢市
（3）対象：25名（家庭や自身に課題を抱えた小学生）
（4）内容：子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。季節ごとの遠足や農業体験、保護者と地域住民を招いてのイベントなどを実施し、子どもに多様な経験を提供する。また、日々の活動として、子どもの主体性を大切にしながら工作や調理実習、グループワークなどを通じて、子どもが生き抜く力を育めるよう支援する。

（3）成功したこととその要因

利用児童については、職員の注意を引こうと過剰に甘えたり、暴力的な行動や言動がみられるなど、注意を払うべき様々な様子がみられたが、1対1の関係を大切にし子どもたちと一緒に過ごすことで、少しずつではあるが、ルールを守ることや学習意欲の向上など、子どもの変化をみることができた。なかでも、遠足に参加できない児童の保護者に自分の思いを手紙に書いて渡すなど他人を思いやる行動がみられ成長を感じられた。
各児童のフェイスシートや日々の記録を行うことで、職員各々が児童の特徴などを共通で理解することでその子に合わせた支援につながった。
季節ごとの遠足や農業体験では、普段見せることのない子どもの姿を見ることができ、特に保護者と参加のいちご狩りでは、親子の繋がりや家庭の様子を感じることができた。なかなか保護者と接する機会がない中で話をする機会が持てたことはとても良かった。
日々の活動の中で、段ボールや画用紙を使って家や剣など児童の個性ある作品を作ることができた。しかし、拠点だけでは活動の幅も狭くなるので「マインクラフト」や「MORIUMIUSプログラム」で活動を充実させる為に活用させていただき、ゲームの世界や自然の中で子どもたちの生き生きとした姿をみることができた。また、子どもと共に成長するためにも「ライフスキルサポート」に参加させてもらい、職員のスキルアップにつながった。今後の支援に繋げていきたい。

（4）失敗したこととその要因

子ども第三の居場所に対して理解をいただいている近隣住民の方は多いものの、児童の声に対して苦情もありなかなか理解を得られていない状況がある。地域の住民を招いてのイベントでは、ボランティアやイベントへの参加などにはいたらなかった。日頃からの挨拶やイベントの告知もしているもの、より第三の居場所を知ってもらい、関わってもらえるような取組みが出来ていない。

（5）事業内容詳細

子どもの自主性を重んじつつ、暖かい雰囲気のなかで楽しく安心して過ごせる居場所となるよう配慮し、当法人の管理栄養士が提供する弁当を、拠点でご飯を炊き、食べる直前に温めたり、時には食器に移し替える等をして、食の確保や栄養面だけでなく食べることの楽しさやおいしさ・暖かさも考慮した。
入浴は、最低限の清潔さは保たれているものの、入浴の仕方が雑であったりし支援は必要である。また、靴や鞄をしまうことが出来ずにいたが、日々の声がけやルーティーンの中で「靴はげた箱へ」「鞄はロッカーへ」を波はあるものの定着させることが出来た。学習については、児童自身の意欲向上に向けて様々な取り組みを行っているところである。
活動に理解ある近隣住民の方は多いものの、イベント参加やボランティアでの参加にはいたらなかった。行政や学校とは、児童や家庭の状況などについて、変化や気になるところがあれば連絡を取り合い情報を共有した。特に、行政とは児童の確保に向けての共有も行ってきた。
1年を通して季節を感じるイベントを計画し、花見や流しそうめん・クリスマス会など実施計画以上の回数行った。ルールを守り、児童にとって様々な学びの機会を持ってもらうとともに、子ども時代の大切な思い出づくりの機会を提供できた。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

1. 2024年3月31日までに一日平均利用児童数を8名にする
2. 児童への居場所、食事、生活習慣支援、学習支援などの安定的な提供
3. ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築
4. 子どもの「経験の不足」を解消するような定期的なイベントを事業期間内に6回以上実施する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	551	文字数チェック	OK

1の達成状況:一日平均利用児童数が5人となり目標を達成できなかった。特に、2月途中から3兄弟が家の都合で利用することが出来なくなり、さらに利用児童数は減少することとなった。

2の達成状況:子どもの自主性を重んじつつ、暖かい雰囲気のなかで楽しく安心して過ごせる居場所となるよう配慮し、食事については、当法人の食部門(管理栄養士のもと)でつくった弁当を、平常時は夕、提供長期休暇時は昼・夕提供し、おやつ提供も行った。入浴は、利用児童の全員が利用している。日々の声がけやルーティーンの中で挨拶や片づけを少しずつだが定着させることが出来た。学習については、児童自身の意欲向上に向けて様々な取り組みを行っているところである。

3の達成状況:活動に理解ある近隣住民の方は多いものの、イベント参加やボランティアでの参加にはいたらなかった。行政や学校とは、児童や家庭の状況などについて、変化や気になるところがあれば連絡を取り合い情報を共有した。特に、行政とは児童の確保に向けての共有も行ってきた。

4の達成状況:1年を通して季節を感じるイベントを計画し、花見や流しそうめん・クリスマス会など実施計画以上の回数行った。児童にとって様々な体験の機会を持ってもらうとともに、子ども時代の楽しい思い出づくりとなった。

3.事業実施によって得られた成果

事業内容である「子どもとの1対1の関係を重視しながら、子ども達の生活習慣形成や意欲向上を支援することで社会的相続を補完する」という目的に向かって、子どもたちが置かれている環境や自身の状況などの把握に努め、児童一人ひとりに寄り添った支援を行った。その結果、学習習慣や生活習慣に改善がみられただけでなく、自己肯定感の向上や少年期の多様な経験などにも繋がった。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

家庭の事情により、利用を継続していくことが出来なくなるケースがみられる。また、子ども第三の居場所が困難を抱える家庭の子どもが利用する場所というイメージを持たれることから、利用を控える保護者や周囲の目がある可能性を想定し一般への広報は控えており、行政と連携し家庭に困難を抱える児童のみの受け入れとしているが、行政から紹介される家庭がほとんどない状況が続いている。保護者が利用を拒否していたり、必要と感じていないケースがあるようにも思われ、この現状についての対応策については、検討中である。

児童の学習習慣や生活習慣の改善を行うにあたって、成果がしっかりと見えるほどにするには、児童それぞれに抱えている課題も多く、想定以上に職員の充実を図らなければいけないと感じた。今年度については、1日の平均利用児童数が目標値より少なかった為に対応できたが、利用児童数によっては職員の数が足りないことも想定している。ただ、職員の数を増やすだけでなく、職員のスキルアップや経験値の積み上げも必要で研修等も充実させていきたい。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書

(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

https://fields.canpan.info/report/detail/30984